

2012年9月議会を終えて

日本共産党広島市会議団
団長 中原洋美

9月議会には、約16億円の補正予算が提案された。市議団は、三つの事業（総合福祉センター整備・高精度放射線治療センターの用地取得・平和大橋歩道橋整備の設計変更）について意見を付して、全ての議案に賛成した。

松井市政の2年目に入り、自民党会派や公明党から、巨大開発を求める一般質問が相次ぐようになった。松井市長も、中国・四国地方を牽引する都市を目指すとして「選択と集中」の名のもとに「広島駅周辺の価値を高める」との理由をつけ、広島駅周辺の巨大開発を一気に進めようとしている。

不要・不急の巨大開発優先の市政運営の流れが強まるなか、9月議会最終日には、地元住民が10年以上にわたり中止を求めてきた広島高速五号線建設の促進を求める決議案を、最大会派（自由民主党保守クラブ）が提出し、住民の抗議を押し切って、賛成多数（賛成33、反対11、棄権9人）で可決した。

日本共産党市会議員団は、安全性の科学的検証を行うことを目的に設置した高速五号線トンネル安全検討委員会で、複数の委員が「安全性に責任が持てない」と退席する事態のなか取りまとめられた報告書は、科学的に耐えうる調査がされているとは言えない。まさに「原発は安全だと信じて甚大な事故をおこした安全神話と同じ道」だと指摘し反対した。

広島高速5号線は、不要・不急、不採算な事業であるだけでなく、対面通行の危険な道路であり、安全性の検証も不十分であること、このまま強行すれば、多くの家屋の補償額が甚大になること等を、全市民的な規模で訴え、その必要性和税金の使い方の是非を問うことが求められる。

広島高速5号線建設を促進する決議は可決されたが、賛成したのは6割で、保守会派の反対や社民・民主が棄権するなど、安易に建設に賛成できない状況に追い込んだことは、この間の住民の粘り強い運動と議会棟での抗議行動の反映である。

市議団は、「高速5号線建設中止を求める」一点での共闘を広く呼びかけるとともに、引き続き、地元住民と力を合わせ、税金の無駄使いを許さない立場で奮闘する。

また、9月議会では唐突に、最大会派から第32回オリンピック及び第16回パラリンピックの東京招致を支援する決議案が提出され、賛成47人、反対6人の賛成多数で可決した。

オリンピック東京招致については、日本共産党東京都議会議員団が反対の声

明を発表している。声明は、大震災の発生が指摘されている東京において都民からは「オリンピックより防災を」の声が大きいこと、都民の賛成は過半数に達していない事、福島事故や震災からの復興もままならないなか、2020年の東京招致は時期尚早だとしており、市議団もこの立場から反対した。

東京オリンピック招致を支援する決議案を可決したことで、広島市がどのような形で支援するのか、今後の対応を注意深く監視する必要がある。

最後に、今議会開会中に、みんなの党公認の議員が酒気帯び運転で警察に摘発され、辞職するという事態となった。議会の信頼を失わせる不祥事は許しがたい。日本共産党市会議員団は、これまで以上に市民の代表にふさわしい議席・議員として働く決意である。